

事業所防災リーダー通信 2023 Vol.28

事業所防災リーダーに向けて、防災知識や防災に関するお知らせ等を定期的に発信します。



火山噴火について知る

全国にある111の活火山のうち、東京にある21もの火山が全て島しょ地域に存在しています。人が住んでいる火山島は8島で、うち6島には常時観測火山があります。火山やマグマの性質による噴火の特徴について知り、特に火山活動の影響範囲に勤務している人はいざというときに備えましょう。

防災マップ、防災アイテムの準備

火山災害の対策として、防災マップ（ハザードマップ）や防災のしおりを確認しましょう。これらは危険箇所や避難所、噴火警戒レベル（下記）ごとに規制される範囲等を記したもので、最寄りの自治体などで公開されています。また、噴石などから身を守るため、堅牢な建物等への緊急的な避難が必要になることもあります。職場周辺の状況を事前に確認し、従業員と共有しておくといいでしょ。また、火山が噴火したら、降灰により物流やライフラインに影響が出る可能性があります。飲料水や食料、懐中電灯等のほか、火山灰対策としてヘルメットや防じんマスク、防じんゴーグルを社内備蓄として保管しておくで安心です。

噴火から身を守る

噴火警戒レベルを確認

特に火山の周辺では、日頃から噴火警戒レベルに注意しましょう。

※火山の状況によってはレベルの発表なく噴火したり、レベルの順番通りでなく発表されたりすることもあります。

噴火に遭遇したら

頭部を守るためにヘルメット等をかぶり、火山灰や火山ガスを吸い込まないようにタオルやハンカチを口に当て、火口から急いで離れましょう。

火山灰に注意

火山が噴火すると、大小の噴石のほか、火山灰が降ります。これを吸い込むと咳や呼吸困難の危険があり、目のかゆみや痛み、充血を引き起こす可能性があります。防じんマスクや防じんゴーグルで保護しましょう。

噴火警戒レベルとは

火山活動の状況に応じ、規制される範囲と、とるべき防災対応を5段階に区分し発表される指標が、噴火警戒レベルです（常時観測火山のみ対象）。レベル2以降は噴火警報であり、入山規制や避難指示が出されます。安全確保のため、気象庁や自治体からの指示に従いましょう。従業員やお客様など利用者と情報を共有することも大切です。

レベル1 活火山であることに留意	レベル2 火口周辺規制	レベル3 入山規制	レベル4 高齢者等避難	レベル5 避難
<p>概ね静穏ですが、状況により火口内が規制されることがあります。活火山はすべてレベル1であり、普段から留意が必要です。</p>	<p>火口周辺に影響を及ぼす噴火が発生、あるいは予想される場合、警報の発令とともに火口周辺に規制が入ります。</p>	<p>生命に危機が及ぶ噴火が発生、あるいは予想される場合、入山規制が入り、状況に応じて高齢者等の避難の準備が必要です。</p>	<p>特別警報となり、居住地域に被害が出る噴火が予想されるため、警戒を要する地域に住まう高齢者等は避難を開始します。</p>	<p>居住地域に重大な被害が出る噴火が発生しているか、切迫している状態に発表されます。危険な居住地域からの避難（島外避難含む）が必要です。</p>

東京都からのお知らせ

東京都では企業防災を主なテーマに、**オンラインセミナーの開催や防災専門アドバイザーの個別派遣**を通じて、民間事業者の皆様や帰宅困難者対策協議会等における防災の取組を支援しています。事業所内で防災研修をやりたい、防災マニュアルの作成や見直しをしたい、など様々なご相談にアドバイザーを活用できます。初歩的なご相談も大歓迎です！まずはお気軽にご応募ください。詳細は以下のリンクをご覧ください。

https://www.bousai.metro.tokyo.lg.jp/kitaku_portal/1000048/1028256/index.html

